

今日のトピック 日本株式市場の見通し

長期の成長力が株価を支える小型株

ポイント1

好調な滑り出しとなった日本株 足元はやや頭が重い

- 2018年に入り、世界の株式市場と同様に日本株式市場も好調です。昨年に90年代後半の高値を抜いてきた日経平均株価などはさらに高値を更新しています。10、11日の両日は円高による業績懸念などからやや上値を抑えられました。

ポイント2

堅調な小型株指数 好需給が支え

- 小型株指数は昨年、前年比+30.2%と大きく上昇し、大型株指数（同+18.5%）の上昇率を上回りました。小型株は好調な需給によって支えられています。東証二部やジャスダックなどの新興市場には2017年以降投資信託を通じた資金が安定して流入しており、足元でも堅調な推移となっています。
- ただ、1月10日現在の予想株価収益率は16.7倍と過去3年の平均値（14.4倍）を上回っており、バリュエーションの観点からはやや過熱感があります。

今後の展開

長期の成長力に期待

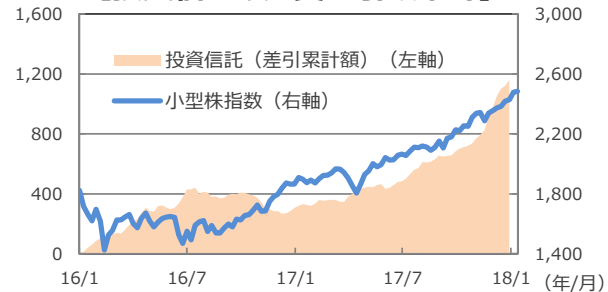
- 2018年の世界経済は堅調な推移となる見通しです。日本経済も輸出と設備投資がけん引するなど明るさを増しています。企業業績の上振れが期待され、日本株式市場は上値を追う展開となりそうです。
- 小型株の魅力は相対的に高い成長力です。1株当たり予想利益を見ると、小型株は2019年～20年と2桁の増益が期待され、長期の成長力で大型株を上回っています。小型株は好調な需給、長期の成長力期待を背景に堅調な推移となる見通しです。

【規模別株価指数の推移】



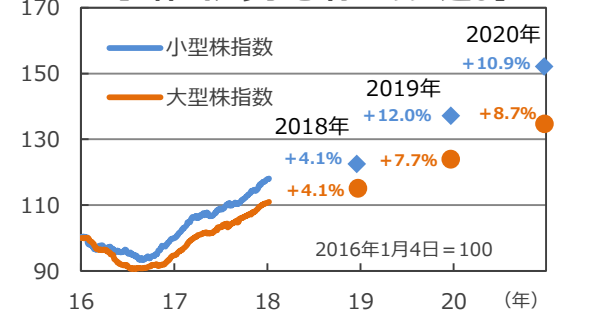
(注1) データは2016年1月4日～2018年1月11日。
(注2) 小型株はTOPIX Small指数、大型株はTOPIX500指数。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【投資信託の売買差引額累計】



(注1) データは2016年1月第1週～2018年1月第2週。投資信託（差引累計額）は2017年12月第5週まで。2016年1月からの累計額。
(注2) 投資信託（差引累計額）は、東証二部、ジャスダック、東証マザーズの合計。
(出所) QUICKのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【1株当たり予想利益の見通し】



(注1) データは2016年1月4日～2018年1月10日。1株当たり予想利益は12カ月先予想。2018年～2020年の1株当たり予想は単年予想値を用いて試算。予想はBloomberg L.P.。
(注2) 小型株はTOPIX Small指数、大型株はTOPIX500指数。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも チェック!

2017年12月27日 2018年の日本経済と株式市場の見通し
2017年12月18日 『日銀短観』は11年ぶりの高水準

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。